



福澤育林友の会  
東京都港区三田2-15-45 慶應義塾 管財部  
TEL03-5427-1050 FAX03-5427-1190  
<http://www.f-ikurin.jp>



## 年頭にあたって

(財) 福澤記念育林会  
理事長 井田 良

あけましておめでとうございます。

皆様にはお健やかな新年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

旧年中は、福澤記念育林会のためにご支援とご協力をいただき、深く感謝申し上げます。今年ほど、1年が過ぎ去るスピードの速さを切実に感じたことはありません。

スピードの速さといえば、私も学者の端くれですので、本を読むことはプロとして携わっている仕事なのですが、本を読むスピードも年々速くなり、本当にあわただしい読書を重ねる毎日になってしまいました。最近読んだ（正確には、ながめた）本の中には、ビル・レディングズという人の『廢墟のなかの大学』（青木健=斎藤信平訳、法政大学出版局、2000年）があります。大学を論じた数ある本の中でも、特に有名なものです。抽象度が高いので、著者の言わんとするところを正しく理解できたという自信はありませんが、統一的な国民文化が消滅するとともに、文化の伝達という、大学が担ってきた役割が意味を失ったところに現在の大学の危機の（1つの）原因があるとしています。

もし、そうであるとしますと、慶應義塾には建学の精神ないし社中共通の理念として結晶した福澤先生の思想があること、したがって、慶應義塾が教育機関として伝達すべき「文化」をもっていることは、誠に幸福なことだといわなければなりません。もちろん、福澤先生の思想をそのまま今の時代にあてはめれば、それですむというものでないことは明らかです。その精神を現在に生かすことが重要でしょう。いいかえますと、福澤先生が語らなかつたこと、しかし、今の時代環境に直面していたら、福澤先生であれば語っていたに違いないことを福澤先生に語らせることが重要なのです。

昨年、慶應義塾では、三田評論の12月号で、「福澤論吉生誕175年」という特集を組みました。年末には、『福澤論吉事典』を刊行いたしました。温故知新という言葉もありますし、これをきっかけに、育林会の皆さまとご一緒に、21世紀の慶應義塾のあり方について考えていくことができたら、大変幸いです。

最後になりますが、この1年が皆さまにとりまして、幸多き年でありますよう、心よりお祈りいたしますとともに、引き続き慶應義塾の森へのご支援とご協力を切にお願いする次第です。

(盛岡研修旅行)

熊本 山本哲生

「九州」とひとまとめに、中央の人たちは言う。岡様に「東北」と云えば？何処だろう？今回は、宮澤賢治の故郷、『盛岡』だった。

都道府県面積、全国第二位岩手県の県都だ。人口 30 万人、北上川、中津川に挟まれた岩手山を仰ぐ街。そこで代々、三田農林を営まれる、三田林太郎さんの企画にお世話になった。

何より豊かな空間と広大な土地。しかし、冬期には-20度を越すという。アカマツもミズナラもこの環境下、時間を永く吸収して豊かに育つ。その森林と人間との濃密な関わり。この旅行に参加した方々、一人一人が思い出を刻み、脳に浸透させたすばらしい研修。文字通り、雨ニモマケズ～の精神と内容でありました。



<懺悔>

私と小林は、夜ホテルを抜け出し、名物「盛岡冷麺」を食してしまいました！しかし、その美味たるや言葉を失します。皆様ゴメンナサイ。

「雨」なんか関係なく 120%楽しむことができました。本当にイイ旅(E旅)でした。 来年 10 回目、そして和歌山……となると、抗しがたいモノがあります。



この度、福澤育林友の会の現地研修旅行のご案内をさせていただき、私自身も大変勉強になりました。父からは小さい頃より慶應義塾の楽しい思い出を聞かされて育ったのですが、私自身が卒業生ではないものですから、皆様をお迎えする前は好みやご様子がわからないので、とても不安でした。

その上、初日は激しい雨となりましたが、管財部の事務局のみなさん方にサポートしていただき、皆様にも辛抱強く街を歩いていただき、無事に日程を進めることができました。弊社農場でのリンゴ狩りには晴れて本当にホッとしました。

皆様の中には以前から林業関係でお世話になっている方々や父の同級生の方もおられ、また今回初めてお話しした方よりも温かい励ましの言葉を頂戴しました。あまり気取らずに普段の仕事や生活の場と、そこで関わる人たちに頼る企画となってしまいましたが、地方都市としての盛岡の一部分に触れていただけたかなと思っております。

今後ともこのご縁を大切にまたお会いできます機会を楽しみにしたいと思います。どうもありがとうございました。

三田林太郎

今回の研修旅行は三田様に一任したようなもので、三田様のお気遣いととても感謝しております。お蔭様で楽しい旅行となりました、どうもありがとうございました。

事務局

---

## 福澤記念育林基金の平成22年度採択決定

---

福澤記念育林基金では、基金による活動支援、研究支援の募集を実施しました。活動支援・研究支援の募集を9月末に締め切り、選考委員会で慎重に審査しました。

平成22年度募集の結果については、以下の通りです。

(活動支援)

応募 1件  
採択者 該当者なし

(研究支援)

応募 16件  
採択者 東京農業大学 中西 康博  
テーマ；「マングローブ生態系の成立と沿岸生態系との関係に関する研究」

今回の応募では、研究支援の申し込みは、レベルの高いものが多く、一部に活動と研究が混在しているのではと思われる申請も見られ、なかには活動助成で取り上げたいものもあったが、結果的には16件の申請の中から3件に絞り、東京農業大学中西氏の「マングローブ生態系の成立と沿岸生態系との関係に関する研究」に決定した。

活動支援については、活動支援と云うよりも研究活動の為にフィールドワークに対する助成申請かと思われるような活動支援と研究支援の区分をどのようにするか考えさせられる申請であった。

選考委員会では募集テーマ等を検討してまいりますが、より多くの方々の応募をお待ちしております。また、今回残念ながら不採択になった方々は、更なるチャレンジをお願いいたします。

---

## 平成23年度「研修旅行」の予定

---

平成23年9月9日(金)～11日(日)の2泊3日で和歌山県清水の森を訪ねる旅行を計画しています。今年は、福澤育林友の会が発足し10年が経過します。今回の研修旅行は『和歌山の「清水の森」を訪ねる旅と』名打っていますが、和歌山が誇る海・川・山の大自然と、熊野古道に代表される文化遺産を訪れる旅の企画を立て現在準備中です。

尚 お忙しい方の為に、1泊2日でご参加もして頂ける様な行程もあ検討しています。

詳細は、後日ご案内いたしますので、皆様奮ってご参加ください。



---

## 平成23年度「森を愛する人々の集い」の案内

---

平成23年度の「森を愛する人々の集い」のシンポジウムは、例年通りの開催を予定しております。現在、講演候補者と日程調整を進めておりますので、「どういう人」が「どのようなお話」をしてくださるのかお楽しみにしてください。

開催日など決定し次第皆様にお知らせいたしますので、もうしばらくお待ち下さい。



## 平成22年度山林視察（栃木県；友情資産25年の森）

今年度は、7月に栃木県の塩那森林管理署から「葛が木に覆いかぶさっているので施業計画通り葛の切りの処理をなささい」と指導があり、急遽8月に大田原市森林組合に葛切りを委託しました。

12月3日、朝から荒天の中、海瀬常任理事と事務局とで友情資産25年の森を視察しました。3年前に研修旅行で見学し、昨年11月に176年三田会の方々が枝打ちされた時の写真で成長度合いなど見ておりましたが、この山の木は大分成長が早いように感じました。また、ヒノキは枝打ちをする必要があるみたいでした。



## コラム； 林業とCO<sub>2</sub>の貯蔵

林業は、人々がCO<sub>2</sub>削減に主体的に関わることができる手段の1つです。CO<sub>2</sub>を吸収してくれる木を植林し、それらが成木となって呼吸量以上にCO<sub>2</sub>を吸収しなくなったら伐採し、収穫することができます。伐採するたびに新たな木を植林することで、森林から伐採した木材はカーボン・ニュートラルとなります。伐採量より多くの植林を行えば、より多くのCO<sub>2</sub>の固定が見込まれます。

スウェーデン林業大学が行った調査によると、森林が適切に成長する場合はより多くのCO<sub>2</sub>が吸収されます。気候変動に関して言えば、伐採して「放置」し、自然の森になるのを待つより、森林を育成・管理し、木材を利用する方が多くのメリットがあると考えられます。もちろん、持続可能な状態で森林を管理運営し、木材の生産においては、環境上の配慮策を講じることが条件です。木を木材製品にすると、木の中に大量の蓄えられていた炭素を木材製品中に長年にわたり貯蔵しておくことが可能です。

### 考えてみよう

人は呼吸により、年間320kgのCO<sub>2</sub>を排出しています。また、1世帯あたりでは、年平均6,500kgのCO<sub>2</sub>を排出しています。そのCO<sub>2</sub>を吸収するには、320kgでは成木23本、6,500kgでは460本の樹木が必要と言う計算になります。

**木材を利用することは、環境に配慮しているということです。**

木材は、CO<sub>2</sub>を炭素の形で貯蔵しています。1m<sup>3</sup>の木材には、およそ1トンのCO<sub>2</sub>に相当する量の炭素が貯蔵している計算です。私たちは家、橋、家具、紙など、様々な形で木材を利用することができます。ヨーロッパ全体としてみると、6,000万トンの炭素が木製品の中に蓄えている計算です。原材料として木材を利用することは、環境にとって大きな利点が存在し、CO<sub>2</sub>削減にも大きな効果が期待できます。

（国際環境教育基金；森林教育プログラムより）